

日本学術振興会外国人研究者招へい事業

マルガリータ・ビラ・ダ・ビラ教授

(ボリビア、サン・アンドレス・デ・ラパス大学)

[演題] アンデスに生きる西洋中世：  
キリスト教教会と先住民芸術における  
「人魚」の表現をめぐって



(スペイン語 通訳あり)



[要旨] 前世紀より、ケーロ(木製壺)や教会ファサードを飾る「人魚」は先住民神話に基づく図像と解釈されてきた。しかし、「人魚」はもともと中世ヨーロッパに生まれ、視覚化された「徳」を表すキリスト教図像である。植民地における美術の担い手と民衆意識の変容を探る。

Margarita Vila da Vila  
ビーゴ(スペイン) 生れ。  
サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学で中世美術史を専攻、博士号を取得。結婚後、ボリビアに渡り、現在はコロニアル様式にも関心を持つ。

2014年3月3日(月) 13時30分 入場無料

東京外国語大学府中キャンパス 留日センター103教室

(最寄駅：西武多摩川線多磨)

主催 東京外大日西交流400周年実行委員会

共催 東京外大総合文化研究所・長崎純心大学

問合せ先 [sirena285@live.jp](mailto:sirena285@live.jp) 浅野

